

今こそ求められる**減災対策**

都市の危機管理における 路面下空洞対策

オールジャパンで
国土強靱化を



レジリエンスジャパン
推進協議会

定員**200名様**

開催日時 平成29年 **10/26** 木
13:00～16:30(12:30受付開始)

開催場所 鉄鋼会館
〒103-0025東京都中央区茅場町3-2-10

開会挨拶 藤井 聡 氏

京都大学大学院工学研究科教授 京都大学レジリエンス研究ユニット長
内閣官房参与、一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会 副会長



皆さん、こんにちは。本日は、大変お忙しいところ多数お集まりくださりまして、まことにありがとうございます。本日は、「都市の危機管理における路面下空洞対策」と題しまして、シンポジウムを企画いたしました。福岡市高島市長を初め、国土強靱化担当の小此木大臣、並びに初代の大臣であられる古屋先生にもお越しいただいて、このような会を開催させていただくことができたことを本当にありがたく感じております。

ご紹介いただきましたように私はこのシンポジウムの主催者である一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会の副会長を仰せつかっています。小此木大臣を中心に政府が今進めております国土強靱化の取り組みは、政府中心の行政的取り組みです。巨大地震や先日来たような巨大台風、そういった自然災害等々に対して十分対応できる力、これを強靱性（レジリエンス）と呼んでおりますが、日本国家そのもののレジリエンスを確保するためには、行政の取り組みのみでは半分の取り組みにしかすぎません。日本国家の運営は行政と民間の活動で成り立っているものですから、政府以外の民間諸組織が強靱になり、さまざまなリスクに対する対応力、レジリエンスを確保することが必要であるという認識のもと、政府との議論も踏まえながら民間のレジリエンス活動を促進するという趣旨で、レジリエンスジャパン推進協議会が設置されました。

本推進協議会の中には、道路、交通、エネルギーなど、さまざまな分野におけるワーキンググループを設置しております。技術的には、強靱性（レジリエンス）確保のためには道路の地下空間・空洞の問題がぜひ必要であるという議論はかねてからありました。

先ほど今年の福岡市博多での道路陥没事故からおよそ1年が経過したと高島市長から伺いましたが、この経験以降、空洞対策についてさまざまな取り組みを進めなければならぬという認識が深まったことを受け、路面下空洞対策に向けてのワーキンググループを設置したところです。

本日はワーキンググループでの議論、さらに様々な自治体のお取り組みを中心にいろいろとお伺いすると同時に、この問題に取り組んでこられた大学の先生方、学識経験者の方々のお話も伺いながら、この地下空洞対策をどう進めていくかについて議論を重ねていきたいと思っております。それぞれのプレゼンテーションに引き続いて、事例報告、パネルディスカッションというプログラムを組んでおります。

一連の議論を通して、道路の地下空洞問題への社会的認識をさらに深め、その取り組みを中央政府のみならず民間と地方自治体が一体となって進めていけるような議論の深化のための一日になることを祈念いたしまして、私のご挨拶に代えさせていただきます。本日はどうもありがとうございます。

